（表紙・第１頁）

論題

氏名

所属

投稿者（共同論文の場合は代表者）の連絡先

（住所）

電話番号

ファックス番号

eメールアドレス

（第２頁）

論　題

氏名

所属

《論文要旨》

《キーワード（５項目以内）》

英文論題

英文氏名

英文所属

《英文論文要旨》

《英文キーワード》

Ⅰ　あいうえお

１　かきくけこ

　本文は，10.5ポイントです。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（１）さしすせそ

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

①　たちつてと

　　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

②　なにぬねの

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

　　○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

Ⅱ　○○○○

（注）

（１）注と参考文献は，９ポイントです。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（２）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

［参考文献］（以下は例示です）

斎藤静樹（2014a）「経済制度国際統合のレベルと経路―会社法と会計基準の選択肢」『企業会計』66（1）：17-24頁。

斎藤静樹（2014b）『企業会計入門』有斐閣。

角ヶ谷典幸（2014）「認識と測定」平松一夫・辻山栄子編著『会計基準のコンバージェンス』（体系現代会計学第４巻）：177‐211頁。

Bens, D. A., W. Heltzer, and B. Segal (2011) The Information Content of Goodwill Impairments and SFAS 142, *Journal of Accounting, Auditing and Finance* 26 (3)：pp. 527-555.

Bromwich, M. (1985) *The Economics of Accounting Standard Setting*, Prentice Hall.

Bruchey, R. (1975) *Growth of the Modern American Economy*, New York.（石井修・米田 巌（訳）（1980）『米国経済史―人間と技術の役割』日本経済評論社）

Filip, A., T. Jeanjean, and L. Paugam (2015) Using Real Activities to Avoid Goodwill Impairment Losses: Evidence and Effect on Future Performance, *Journal of Business Finance and Accounting* 42 (3-4)：pp. 515-554.

Paugam, L., and O. Ramond (2015) Effect of Impairment-Testing Disclosures on the Cost of Equity Capital, *Journal of Business Finance & Accounting* 42 (5-6)：pp. 583-618.

Ramanna, K., and R. L. Watts (2012) Evidence on the Use of Unverifiable Estimates in Required Goodwill Impairment, *Review of Accounting Studies* 17 (4)：pp. 749-780.